

NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ 会報

STEっ子パラダイス

all for ワ
ダフォー!!

えぬぴーおーほえん
じりつせいかつせんたー
すてっぷえどがわ
かいほう
すてっこぱらだいす
おーるふあわんだらおー

ねん がつこつ
2004年12月号



もう 12月ですよ。この時期になると、「嗚呼、今年は早かったなあ」なんてことをよく耳にします、毎年のことですけど。でも不思議と事実なんですよ。若いとき（まあ今でも若いんだけど）言われました。「年取ると時が経つのは早いよお、覚悟しておきな。」凄え、本当だ。確かに今年は今迄に無い位に早かったぜ。一年が終わると言うのにまだ半年も経ってない気がする。多分この勢いで生きて行ったら俺が 50歳の頃には一年は 10分位 になってるんだろうな。そうか、日本人って生きれば生きる程、時が短くなってしまいう人種なんだ。きっと 100歳のひとの一日って実質10秒 位 なんだろうな。



いまむら のぼる
今村 登

じゅうがつはつ か きょうれつ たいふう ごう
10月20日、強烈な台風23号の
ちよくげき ぜんこく かくち
直撃をもらともせず全国各地から
しょうがいしゃ あつ しょうがいしゃ ちいきせいかつ
障害者が集まり「障害者の地域生活
かくりつ じつげん もと ぜんこくだいこうどう
確立の実現を求める全国大行動」とい
う、おも しえん ひ かいごほけん どうごう
主に支援費の介護保険への統合に
はんたい こうぎこうどう おこな
反対する抗議行動が行われた。この
ちよくぜん がつ にちづけ こうろうしょうしょうがい
直前10月12日付で、厚労省障害
ぶきよく こんご しょうがいしゃふくししきくあん
部局から「今後の障害者福祉施策案
(グランドデザイン)」というものが
だ
出された。

ご うご かいごほけんとうごう よとう ざいかい ぜんこくしちょうそんちょうかい
その後の動きでは、介護保険統合については、与党、財界、全国市町村長会な
どの反対・慎重論により、せいきゆう とうごうろせん さ もよう
性の急な統合路線は避けられそうな模様になってき
たが、あら だ ぐらんとでざいん いっけん よ せいどあん おも
新たに出了されたグランドデザインなるものは、一見良い制度案のように思
えてしまうが、じつ くせもの ひとこと い かいごほけん
実はとんだ曲者のようなのである。一言で言うなら、「介護保険
とうごう かいごほけん おな
に統合しなくとも、介護保険と同じようなものにしちゃいますよ」というもの
である。それ以外にも、これまで積み上げてきた良い部分すらも崩れ、なんびよう
せいど はざま ひと あいか はざま あん
ど、制度の狭間の人は相変わらず狭間のままの案らしい。

こんかい こうみよう くせもの もんだいてん でいーびーあいーほんかいぎ じ む きょくちょう
今回は、その巧妙な曲者の問題点について、D P I 日本会議事務局 長の
おのうえこうじし ごくかんたん かいせつ なか しゅうようぶぶん つぎ
尾上浩二氏に、極簡単に解説していただいたものの中から主要部分を次のよう
に抜粋させていただいた。

「グランドデザイン案」を読む

わたし め わたし き
「私たち抜きに、私たちのことは決めてはならない」

でいーびーあいーほんかいぎ じ む きょくちょう おのうえこうじ
D P I 日本会議事務局 長 尾上浩二

こんご しょうがいしゃほけんふくししきく ほうこう かいかく ぐらんとでざいんあん
【今後の障害者保健福祉施策の方向（改革のグランドデザイン案）】について
しょうがいほけんふくし そうごうか じりつしえんがたし すて む てんかん かか
「障害保健福祉の総合化」「自立支援型システムへの転換」を掲げながらも、
ぐたいてき こうもく めだ かくさーびすきょうつう しゃくど にんていしんさかい
具体的な項目として目立つのは、「各サービス共通の尺度と認定審査会の

設置「応益負担の導入、施設入居者の自己負担の見直し」と言った「給付の重点化・公平化」に関連したもの。

「支援費制度の地域生活の理念、自己決定の理念については断固評価できる」(4月30日公開対話集会での塩田部長の発言)としてきた。そうした理念は歪曲・否定され、その具体項目が実施されれば実際には重度障害者の地域生活が後退する恐れがあると言わざるを得ない。



これまでの障害者施策の展開との整合性、実態的な検証が不十分

これまでの障害者施策の内在的な発展方向との整合性や実態的な検証が行われないままの案となっており、1993年障害者基本法、1995年障害者プラン、そして2000年社会福祉法で不十分ながらも示されてきた「障害者の自己決定」「施設から地域へ」という歴史を後戻りさせかねない。

①「自立支援システムへの転換」「各障害共通の枠組のため障害者福祉サービス法」と一見「改革的」な枠組みが示されている。しかし、その具体内容は「ADL自立・職業自立論」へ傾斜しており、「自立」理念の揺り戻しが起きている。

②これまで障害者施策では、障害者の実態・特性をふまえた一定のきめ細やかさや、1990年代以降、当事者発・地域発の事業等を積極的に採用する形で展開されてきた。「グランドデザイン」は、そうした展開と矛盾する内容となっている。例えば、「移動介護」を地域生活支援事業として整理するのは、1988年以前に戻すことになる。(1988年に、移動介護のニードの広がりに対応するために『社会参加促進事業』からホームヘルプ事業の中に入ることになった。今回案は、それ以前に戻すものとも言える)

「認定審査会による支給決定」「負担見直し」「地域での自立生活不在のサービス再編」



具体的な項目としては、次のような問題点があげられる。

- ①「サービス共通の尺度」に基づく認定審査会方式～画一的な支給決定になるのでは？
・現場である市町村では介護保険認定審査会に準じた構成となり、障害者のニードが理解されないまま決定されるのでは。認定審査会でなく、行政と利用者の間で決定したものに對しての不服審査会に。
- ②「応益負担」の導入によって必要なサービスを使えなくなる一所得保障の確立等の議論はないまま。
・2000年の社会福祉法改正時の議論に比べて所得や就労状況が改善された訳でもなく、所得保障の確立についても議論が行われないまま、「応益負担の導入」に転換することは余りにも唐突。

③介護給付以外の地域生活サービスはなくなる？－自立生活支援の新しいサービス体系がない。

・居宅サービスはほとんど介護給付となり、移動介護等については地域生活支援事業に（将来は一般財源化？）。一方、自立支援給付はほとんど施設が入居者に対して個別に行うサービスのみ。

・介護に馴染まないサービスは障害者施策による横出し・上乗せの仕組みでカバーする」と言われてきたが、実際には「横出しサービス」は施設が実施するものに限定されており、地域生活支援サービスの横出し・上乗せの仕組みがなくなっている。

④障害程度別のグループホーム～ホームヘルプやガイドヘルプは使えず「ミニ施設化」？

・就労可能な者をグループホーム、それ以外の重度の者をケアホームという形で障害程度別に区分。ホーム内の支援は全てホーム職員だけで対応し、ホームヘルプ・ガイドヘルプは使えなくなる。

「私たち抜きに、私たちに関することは決めてはならない」(Nothing about us, without us)

これだけ大きな影響を与える「グランドデザイン」をわずか2ヶ月で決めることの無理。世界の流れは、「私たち抜きに、私たちに関することは決めてはならない」

障害種別を超えて権利に基づき地域での自立生活ができる法制度を

「障害者福祉サービス法（仮）」は重要なものであるからこそ、禍根の残らない検討がなされる必要がある。身体・知的・精神と障害別に分立している法体系の見直し、国際的に狭い障害概念・認定制度の見直しなどを行い、難病やてんかん、自閉症等「制度の谷間」の障害者をつくらないようにすることが必要。また、国連で障害者権利条約が検討されている現在、サービス受給権・申請権や「地域で生活する権利」（障害者権利条約草案）の明記等が求められる。

グ ラ ン ド デ ザ イ ン に つ い て の 追 加 解 説

～11/26 の社会^{しゃ}保^{かい}障^ほ審^{しん}議^ぎ会^{かい}報^{ほう}告^{こく}を^う受^うけ^て～

いまむら のぼる
今村 登

10月の案では、現状の日常生活支援の扱いについて明記されていなかったが、それが今回明記された。それによると個別給付に含まれ、いわゆる全身性障害者は日常生活支援で移動も行うというものだった。これにより（移動介護・介護あり）の単価は廃止されると思われる。事業所的には高い単価の移動介護区分がなくなるのは痛い、一方で日常生活支援はオールマイティな使い勝手となり、利用者にとっては、区分が統一されること自体はよいことに思える。しかし一番の問題は、ヘルパー派遣時間数の判定基準を現行の介護保険に準ずるとされていることである。そうすると最重度の要介護度5の判定を受けても1日3～4時間しか派遣されない。しかも要介護度5というのは、ほとんど寝たきりの方が当てはまる基準なので、重度障害者と言えど日常的に車椅子に乗って何かしらの活動をしている人は、せいぜい要介護度3程度の判定となり、1日2時間程度のヘルパー派遣時間になってしまうのである。ただ、制度上では市区町村が認めればそれ以上の派遣も認められるとなりそうだが、それはすなわち全額市区町村で費用負担しなさいということである。こうなると、今まで受けていたサービスの大幅な低下は市区町村もそうは強固にできないであろうから、仕方なく現状維持はするかもしれないが、年々縛りがきつくなることは十分考えられる。同時に、新規の自立生活者は相当厳しい状況になり、実質的に長時間介助を必要とする重度障害者の地域での自立生活は極困難となっていくであろう。更に就労支援、所得保障の不十分なまま、自己負担については応益負担（一割負担）の考えが基本となっているので、その負担がきつくてヘルパー派遣を自ら抑制（我慢）する障害者も出てくるであろう。生活保護ならば自己負担無しなので、より一層就労するより生活保護を望む障害者が増えることにもなりかねない。一方で生活保護費の抑制も検討されている。これだけ強固で性急な厚生労働省の動きの背景には、三位一体改革という小泉内閣の方針がある。地方分権推進の方針自体はよいことだが、

けっきょく ちょうき び じょん ふめいかく くに さいしゅつ かつ と
結局、長期ビジョンの不明確なまま、とにかく国の歳出をカットすることが
だいぜんてい せいさく き くに ちほう
大前提で政策が決められていくところに、この国のはかなさがある。ただ、地方
ぶんけん すす あ ほりつ ほしょう おお いっぱんさいげんか
分権が進むに当たって、法律で保障されずにいきなり多くのものを一般財源化
されてしまつては、ことホームヘルプ予算など、地方間格差は一層広がってし
まうであろう。そういう意味ではまだまだ紐付き補助金であつて欲しい。ただ、
ほじょきん さいりょうてきけいひ よさんかくほ ほしょう ぎむてきけいひ
補助金では裁量的経費のため予算確保の保証はされないため、義務的経費であ
る国庫負担金に代えるべきというのが、一昨年来の我々を要望であつたが、あ
る種そこにつけ込むかのごとく出てきたのが三位一体改革の後ろ盾を得た
ぐらんどデザイン案 と言えよう。

ていーびーえすほうどうばんぐみ にゅーすつーすりー めいんきやすたー ちくしてつや
TBS報道番組「NEWS23」のメインキャスターである筑紫哲也さんがこの
さんみいったいかいかく たじそうろん つぎ い まった も
三位一体改革について 11/24 の「他事総論」で次のように言っていた。全く以
って同感である。

＜他事総論：『似て非』＞

この内閣になって私たちは何度改革・構造改革という言葉聞いたかわかり
ませんが、これまでの改革はどうもすっきりしない上に、痛みの先にどうい
きぼう うえ いた さき
う希望があるのかというのが見えてきません。ところが、この三位一体の改革と
いうのは本当にその通りにやれば、その先に希望がないわけではありません。
ちゅうおう くに はし あ お い ちほう とどうふけん しゅく
中央（国）から橋の上げ下ろしまでうるさく言われている地方（都道府県・市区
ちょうそん かいほう じぶん ちいき きやういく
町村）が、そこから開放されれば自分たちで地域づくり、あるいは教育の
あり方を考えるという、少なくともチャンスがあります。しかしながら議論を
しているうちにどうも様子がだんだんおかしくなつてきて、三位一体なのは
ちゅうおうかんちやう ぞくぎいん ろうどうくみあい ほう かん いちばん
中央官庁と族議員と労働組合の方であるという感じすらいたします。一番
めいそう ぎろん ほじよりつ なんぶん いち なんぶん いち ひ あ
迷走している議論は、その補助率を何分の一から何分の一に引き上げるとか、
すうじ あ ほう はなし はい こ すうじ か
数字合わせの方に話が入り込んでいったことであります。いくら数字を変えて
も中央と地方の紐がつくということを変えなければ、これは本当の改革にはな
らないわけでありまして、どうもそっちの方へ話がいつて、玉虫色と言
いますけれども実は玉虫色ではなくて改革そのものの基本が崩れてしまいます。
そういう改革で何が出てくるかといえ、もともと「中央からのお金を
けず ほんね ざいむしょう いこう ぜんたい で
削りたい」というのが本音である財務省の意向というものが全体に出てきてし
まって、地方に色んな混乱が起こる可能性があります。そうなりますと三位一体
きわ に ひ すす
とは極めて似て非なるものが進もうとしているわけで、そういうことになるの
だったら、いっその改革はやらない方がマシかも知れません。

第一回ピア・カウンセリング集中講座終了報告

ピア・カウンセリング担当 丸田君枝

去る10月9日～11日まで、東京都障害者総合スポーツセンターにてピア・カウンセリング集中講座を開催しました。と言いたい所ですが、一日目の9日は、関東地方台風22号直撃の洗礼を受け、やむなく中止とさせて頂きました。その分の振替日を11月14日とし、無事終了できました。リーダー & サブリーダーは、とっても癒し系なお二人で、CILくればすの見方信子さん、と上野美佐穂さん、他参加者5名、私含め当方障害者スタッフ2名で行われました。今回の講座は、ピア・カウンセリングの「初歩」の「初歩」を学ぼう！ということで、参加者もほぼ全員が初体験のことが多かったようです。そのせいで、なかなかその場の空気に馴染めなかったりという様子もありましたが、徐々にそこに仲間がいることの心地良さを感じていけたのではないかと思います。

今回初めてピア・カウンセリング講座を開催出来、新しい仲間と出会えたこと、そしてみんなの力で何とか無事に終了出来た事にとっても嬉しく思っています。また私もピア・カウンセリングが好きになりました。これからもみんなと繋がっていききたいです。例え台風であろうと何であろうと、どうにかなる！ということをやぶる事も出来、とっても記念すべき第一回目の講座でありました。何が起きても怖くないぞ！そんな意気込みで、次なるSTEPへ繋がっていきたいと思います。

引き続き、参加者の方に頂いた感想へ。。。。

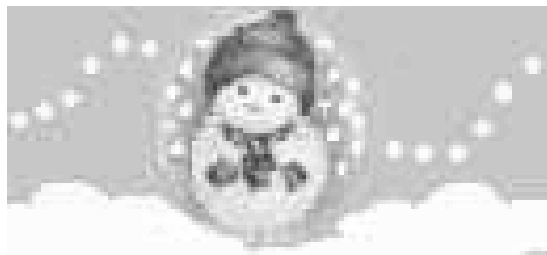


『ピアカウンセリング 集中講座に参加してみて』

吉岡 久一

今年は夏からおかしい天気が続き、真夏日最多、雨不足、と観測史上初づくしでした。そんな中、大型台風22号が上陸中の、10月10日（日）～11日（祝）11月14日（日）ピアカウンセリング 集中講座が、東京都障害者総合スポーツセンターにて開催されました。

私はステップ江戸川主催のピアカウンセリングへの参加は、前回のピアカン公開講座に続き2回目でした。前回受講したピアカン公開講座で、ピア・カンの初歩を覗き、ステップ江戸川のスタッフの皆さんの暖かさにふれ、台風と共に、再度千葉の君津から参加しました。ピア・カウンセリングの目的も知らず、根は引っ込み思案でおとなしい私は、初めのうちは電動車椅子の上で固まっていた。でも、講座が進行するにつれ、リーダーとサブリーダーの『ミカ・ミサ』ペアの、優しさ溢れる心地良い流れのなかで、いつの間にか積極的に講座に参加できました。そして、たくさんの素敵な仲間と知り合え、自由セッションや人間の本質などについて、深く語り合えた事に感謝したいと思います。この、講座を通して自分が大切な存在であるという事を再確認でき、これから生きていく上での自信や勇気を思い起こされる、楽しかった3日間でした。



ピアカウンセリングは自分へのカウンセリング？

ピアカウンセリングを受講して受講前との違いは再度自分の中で「自分が今後どのようにやっていきたいか」の発見ができた事である。また、多くの情報交換ができたことで生活していくノウハウを学んだ事とである。

発見やノウハウを学んだことはこの講座の3つのカリキュラムからである。

- ①自分の過去・現在・未来を基本的な部分から考え、見つめ直すことで自己再確認をする。
- ②他の人の話を聞き、その人達が今何を思い、考え、日々障害と共に生活を送っているのかを知り、共感できる点を発見することで安堵を得た。
- ③①と②を土台に今後の自分の生き方の方向性を現実的に捕らえ、考える機会を得る事ができた。

私はこの3つから新たな自分の方向性が見えて、「本当のところ自分はどうしたいのか」を見つめ直すことができた。

それは、新たにピアカウンセラーとしてやっていきたいと思ったことにも表れているのではないだろうか？

しかし、今回の受講だけではまだ自分自身のカウンセリングが終わっていない気がした。この新たな

目標に近づくためのstepとして、これからもピアカウンセリングに参加し自分を高めていくつもりだ。そして自分自身のカウンセリングを終了させたあかつきには、自分に自信を持てると共に今後の目標としているピアカウンセラーに近づいていく気がしていると思った。

今後、多くの人が受講を機に前向きに社会の中で生きていって欲しい。そのために講座の積極的な参加を呼びかけていきたいと思う。そして、結果受講者に何らかの感情の変化が出て自己啓発に結びついてくることを期待したい。



へいせい ねんどじりつせいかつぶろぐらむ ふいー るどとりっぶ
★平成16年度自立生活プログラム フィールドトリップ★
けいば い うま はなし ほうこく
競馬へ行こう！！～ウマイ話はあるのか？！～報告

『競馬場って障害者でも、車椅子でも行けるの？』そんな疑問を持っていたり、『なんとなく一人じゃ行きにくいな。』という思いから企画したフィールドトリップを、去る9月18日（土）J R A 中山競馬場にて開催しました。参加者は当方スタッフ含め8名。競馬のエキスパート？！松本佳法さんによる丁寧な資料も作って頂き、競馬の云々を知ることが出来ました。いざ、競馬場に着き、まあ～、広いこと！結構キレイなこと！！驚きでいっぱいでした。まずは、場内を見学。広すぎてどこに何があるのやら？って所に苦労していました。そして、競馬新聞とにらめっこし、馬券購入！最近、人がいる窓口じゃなくて機械で購入できるのかあ！とへんに感動したりと色々でした。競馬観戦は、車椅子専用の指定席（有料）で。まるで馬主気分？！勝敗はどうあれ、力強く走る馬達に感激しました。そして、みんなで競馬場へ行き、楽しめたこと、案外車椅子でも利用しやすい事もわかり、大きな収穫であったと思います。



第一回親睦 バーベキュー 大会報告



まるたきみえ
丸田君枝

さ がつ にち もく とりつしのざきこうえん しんぼくばーべきゅーたいかい おこな
去る10月7日（木）都立篠崎公園にて親睦バーベキュー大会を行いました。
すうじつまえ てんこう わる あしば しんばい とうじつ ねら
数日前まではずっと天候も悪く、足場も心配されましたが、当日は狙ったかの
ようによい天候に恵まれ、少し汗ばむくらいになりました。参加者は、介助者も
ふく めい おお かた さんかいただ にぎ ふだん
含め34名と多くの方にご参加頂き、とても賑やかで、また普段なかなか
あ りようしゃ ただんたい かた こうりゅう で き うれ おも
会えない利用者さんや他団体の方とも交流が出来、とても楽しく思いました。
た つづ ひと の はし ひと や お ひと はじ きかく た
食べ続ける人、飲み走る人、焼きに追われる人…初めての企画で、足りな
いものないかなあ？と心配でしたが、皆さん思い思いに楽しんでいた様子を伺
えたので、良かったあ！と思えました。飲食類等、ご寄付頂いた方にもこの場
か おれいもう あ らいねん みな こうりゅう じかん
を借りて御礼申し上げます。また来年もこのような皆さんと交流できる時間を
も 持っていきたいと思います。



まだ焼けへんかなあ～？？



じりつしえんせんたー
自立支援センター「むく」のみなさんです！



これから^{ばーベきゅー}のBBQについて。
^{おとこだんぎちゅう}男談義中。。。？

いっぱい^た食べてるでえ～！
 まだまだ^{いけ}イケるでえ！！



^{おれ}オレらの肉、^{にく}取^とったら^{おこ}怒るで、^{こらあこっ}コラアッ！！



みんなあ！おなかいっぱい！？ はい、^{ばーベきゅー}バーベキュー？！

こなんなんみつけました!!

2004 dec No.7

編集:NPO法人自立生活センターSTEPなどかわ

〒132-0065 東京都江戸川区南篠崎町3-9-7-1F

T E L : 03-3676-7422 F A X : 03-3676-7425

<http://www.nextftp.com/step-e/>

「メール110番」運用1年 届いたのは、いたずらだけ／岩手

◇「認知度低い」と障害者団体／県警は
「広報を徹底させる」

耳や言葉が不自由な障害者が事件や事故に遭った場合に、パソコンや携帯電話のメールで通報できる「メール110番」の運用が始まって1年を迎えた。これまで届いたのはいたずらメールだけで、正式な受理はゼロ。県警地域課は「障害者が事件・事故に遭遇していないためでは」と話すが、関係団体や障害者の間ではシステムの認知度が低く、広報不足やメールで説明する煩雑さを指摘する声が上がっている。

メール110番は、県警に新しい通信司令室が設置されたため、昨年11月から始まった。地域課は県、県教委、県社会福祉協議会を通じて聴覚、視覚など障害者関係の26団体やろう学校にメールアドレスを掲載した文書を送った。だがそれ以降は継続的な広報はしていないという。

当事者の認知度はあまり高くないようだ。

システムの存在を知らなかったという大信田康統・盛岡障害者自立支援プラザ所長は「聴覚障害者が携帯のメールでやりとりすることが多くなってきているので教えてほしかった」と話す。

高橋幸子・県ろうあ協会会長は、システムの必要性に疑問を投げかける。自身も障害を持つ高橋会長は、普段から携帯電話で友人とメールのやりとりをしている。だが、かつて友人が事故に遭ったときは近くの人に異常を知らせて通報してもらったという。「メールで通報するよりも早い」というのが理由だ。

全国的にほとんどの警察が運用しているメール110番だが、正式な通報は少なく、ほとんどがいたずらメールという。瀬川正範・県警地域課次長は「メール110番について知らなかったとか、使いたいという声があれば再度、広報を徹底していきたい」と話している。

携帯電話やインターネットが欠かせなくなった現在、様々な緊急通報システムがありますね。『メール110番』初めて知りました。システムを作ったら、広報が大事になると思います。と言うか、システムを作る前にそのシステムを活用するとされる当事者の声、意見を聞かないと、せっかくのシステムが死んでしまいます。広報が云々以前に、当事者が必要としているのかどうか、どんなシステムが良いのか、調査したのかが疑問に残る。現在、障害を持つ当事者も自分の必要なサービス等、どんどん声に出していく時代です。そう、それは「与えられるだけのサービス」では足りなかったり、的がずれていたりして、活用し辛いのです。障害者の事は障害者が、もう少し大きく言えば、自分の事は自分が一番よく知っているはず。そう考え、実行していくとより良いものが出てくるのにね。

りようしゃ まる おも と ころ
利用者MARUちゃんのちょっと思うところ

ひとり じかん すば
『一人の時間の素晴らしさ』

もう12月。一年が終わろうとしています。なんだかんだ今年もいろんなことがありました。色々な人との出会いもありました。たくさん力を分けてくれた数え切れないくらいの仲間、朝も夜も益も暮れも正月も力を貸してくれたヘルパーさん達に感謝して今年も年を越せそうです。

私は自立生活を始めて6回目のお正月を迎えようとしています。その中でヘルパー制度を活用しての生活がもちろんあるわけですが、本当に正直、たいへん。「出来るとしたら一番何がしたい？」と聞かれると、「だーれもいない、何の音もしないところで、何もしないで一日中ぼーっと日向ぼっこしたい。」と答えたい。長時間介助が必要になるにつれて、その思いは膨らんでいきます。一人の時間を持てるというコトは、とっても素晴らしいと思いませんか？！何気ないことかもしれないけど、人にはそんな時間も必要だと思います。でも、私のような重度障害を持つ人には、かなりの難題です。誰かの力を必要とする、と言うコトは、一人の時間と言うのはかなりの不安や危険も伴ってきます。どうすればいいのーっ？！と、気持ち的には複雑なものがあります。だから時々、ヘルパーさんに別の部屋で待機をしてもらう事があります。可能であれば、外で待機してもらう事もありだと思っんですよ。だけど、気になっちゃうんですよね。なんとなーく。『ヘルパーは空気であれ。』とはよく言ったもんですが、難しい。『人』ですもの。でも、やっぱり理想は『空気』であって欲しいですけどね。『空気である』と共に、『空気を读める』存在であって欲しい。また、ヘルパーさんからもたまに、待機はツライ・・・と言う声を聞く事もあります。同じような思いなのかなあ？『じっとしてるだけでいいの？これが仕事でいいの？』とか。ま、言えるコトは、『待機も立派な仕事です。』と言うことです。どちらも、あってもいい権利を使っているのに、気になってしまう。。。。。こういう思いが色々重なって疲れるんだな、きっと。来年は、『息を抜く方法、自分を楽にする方法』を見つけていきたい。もっと自分が気持ちよく生きれるように。



たけだにっき 武田日記

11月22日 月曜日 晴れ

今日は、待ちに待った“ケーキ作りの日”。

参加してくれたのは、まなちゃん、あさちゃん、としえちゃん、
まいちゃん、ヘルパーの高橋さんに、私。

まずは、葉梨先生がお手本を披露。

その後、2人ペアになって、卵をハンドミキサーでのメレンゲ作り。

ガーガーしてるうちに、真白いふわふわのメレンゲができ、ハートの
エプロンのまなちゃんも楽しそう。

粉を振って、バターとメレンゲと混ぜ合わすところが、今回の一番難しいところ
だったかなあ？泡をつぶさずサックリ混ぜあわす。これはまいちゃん、とし

えちゃんが気合をいれ、うまく混ぜてなかなかいい

感じ。生地を鉄板に流し込みオーブンに。ちゃんと

ふくらむか、ちょっと心配。次に先生の

マロンクリーム作りから仕上げの飾りつけまでの

お手本。見ている間にも、いい匂いが・・・

マロンクリームなんて作れるの・・・？と思ってた

が、簡単にできちゃった。マロンペーストとバター



をハンドミキサーで混ぜるだけ。

スポンジも焼き上がり、シロップ、生クリームを塗

り、刻んだマロングラッセを散らして、

ロールケーキになるように慎重に巻いていく。焼

きたたのスポンジだからやわらかくて巻きにくい。

介助の人に手伝ってもらって巻き上がり。

飾りつけのクリームを絞り袋に入れ、いざ飾りつ

け！！

先生のお手本のようになりたいとは思って



でも、プロとド素人との違いが出るわね・・・と思いながら、普通より多めに
クリームを絞り、マロンぐらっせをデンと真ん中に乗せ出来上がり！！

先生が作ってくれたのを、介助に入ったひと皆で試食をしました。あさちゃんも自分でおいしそうに食べていました。みんなも幸せそうな顔をしていました。

また、ぜひやりたいなあ・・・とみんな言っていました。また、教えてくださいね！！
葉梨先生！！今度は、ぜひ、一緒につくろうよ！！まるちゃん！！





な ー す

URSE いちかわのヘルスコーナ

へ る す こ ー な

いちかわ ひろ み

市川 寛美

「医療行為」「医療類似行為」という言葉がありますが、具体的にどんな事をさして言う事かわかりますか？ 病院で注射したり点滴したり検査や手術は誰でも明らかに医療行為だということはお分かりになると思いますが例えば風邪をひいて薬を飲んだりケガをして絆創膏を貼ったりすることも医療行為といわれています。

どこの家庭でも誰でもごく普通におこなわれている事でも第三者が関わると「医療行為」と言われてしまいます。ここで問題となるのが医療従事資格のないヘルパーがその辺りのことをどうするのか・・・という問題です。看護協会・医師会・患者団体その他様々な関係者たちがいろいろと協議をしていますが未だにハッキリとした答えが出ないまま今日に至っています。

医師法17条（昭和23年施行）で「医師でなければ医業をしてはならない」とし、例えば制定当時血圧測定も医療行為と定め無資格者が血圧測定をおこなった場合は取り締まるよう通知を出しています。また、これは制定から50年以上も経った今でもこの通達は無効なのだそうです。50年前がどんな時代だったか知らない人もいますが、（私も知りませんが・・・）その当時体温計ですら水銀計だった時代ですから今のようないきなり自分で簡単に測定できるデジタル血圧計などという物が存在していたとは思えません。医療というものが50年でめざましく進歩し、また、ここ最近では入院の短期化傾向・訪問看護の普及などにより、在宅で医療を受けている人も多くなっています。時代が明らかにかわっているのに制度が半世紀も昔のままという事にまず問題があるように感じます。「医療行為」の示す範囲を明確にして、何が医療行為で何がそうでないのか、今一度きちんと整備することで多くの問題が解決されていく事と思います。

でも、たとえ医療行為を明確にしても、障害ゆえに明らかに医療行為と言われる手段を使って日常生活をおくらざるを得ない人がいるのも事実です。

例えば、普通はトイレに行って意のままに自分の体に指令を送って排泄ができる
ところ、障害ゆえに自分の指令通りに体が動かないから「医療行為」という
手段で代用して日常的に排泄をするわけです。それを医療行為だから・・・
と言って例えば訪問看護が来た時にしか排泄が出来ないというのも無理な
話ですし、自分でやらなければならないと、不自由な体を無理矢理に
トレーニングする、というのも違うと思います。

「医療行為」と言ってもその人にとっては本当に日常生活のごく一部に過ぎない
わけです。だからと言って「医療行為」と言われる以上、誤った知識や経験の
未熟が重大事故につながる危険を秘めていることには変わりはありません。

看護師は最低3年間、解剖学・生理学・病理学・薬学他様々な知識を、また実習
で技術の習得をし、国家試験に合格した者だけに与えられる資格です。医者にお
いては6年もの期間がかかります。そういった資格を持った人にだけ認められて
いる行為を安易にヘルパーが見よう見まねで行うのは非常に危険ですし、
過去に経験があったとしても理論的な根拠に基づく最良の方法を判断するこ
とは不可能だと思います。(そもそも確定診断や治療方針を決めるのは看護師に
さえ認められず、医師のみに認められている行為です)まして間違った判断や
技術的なミスをしてしまった時に、責任のとりようがありません。

ではどうしたらよいのでしょうか？

一般在宅医療が必要になる人の場合、病院で医師や看護師から本人・家族が
指導を受けます。目的、方法、予測される危険な行為・副作用などを説明の上
安全に行えるようになるまで繰り返し指導を受けます。そして実際に在宅で行
い、随時外来や訪問看護などで正しく行えているかチェックを受け必要時、
再指導を受けています。

STEPでは医療行為については上記を元に以下のように考えています。

必要な医学的な知識や手法については本人がしっかり医療者から指導を受け
ることが大前提です。その上で、障害ゆえに自分(または家族)が行えない
部分をヘルパーが手となり足となり介助する。自分が脳からの指令を手足
に送るように自分の判断の下ヘルパーに指示を出す、その全ての責任は本人に
あり、自分で判断できない・分からないことについては医療者の判断を仰ぐ。
介助に入るヘルパーには、しっかり指示を出すだけでなく、危険を伴う行為で

あるという認識^{にんしき}を持って^も介助^{かいじょ}するよう、また間違い^{まちが}がないかどうかちゃんと
確認^{かくにん}するよう指導^{しどう}するところまで責任^{せきにん}を持って^も欲しい^ほと思います。^{おも}(これはもち
ろん自分^{じぶん}で理解^{りかい}・判断^{はんだん}・指示^{しじ}が出来る^{でき}人の場合^{ひと}に限り^{ばあい}ますが。)

自分^{じぶん}の飲^のんでいる薬^{くすり}について作用^{さよう}・副作用^{ふくさよう}を知^しっていますか？
自分^{じぶん}が日頃^{ひごろ}普通^{ふつう}に行^{おこな}っている医療^{いりょう}行為^{こうい}、危険^{きけん}性^{せい}またその対処^{たいしょ}法^{ほう}など知^しっていま
すか？リスク^{りすく}が高^{たか}ければ高^{たか}いほど、回避^{かいひ}する方^{ほう}法^{ほう}や緊急^{きんきゅう}時^じの対処^{たいしょ}法^{ほう}緊急^{きんきゅう}時^じの
連絡^{れんらく}先^{さき}等^{とう}自分^{じぶん}の体^{からだ}をよく知^しって、自分^{じぶん}の体^{からだ}は自分^{じぶん}で守^{まも}る、それが在宅^{ざいたく}医療^{いりょう}
をしていく上^{うへ}での一番^{いちばん}大切^{たいせつ}なことだと思^{おも}います。



福祉機器・介護用品・住宅改造のお問合わせは
お気軽に当店まで！ 自社工場完備で修理・改造がすぐ！
— 福祉機器のトータルプランナー —

有限会社 **パムツク**



江戸川区新堀1丁目25番1号
(レンタル車いす・車いす保険も取扱っております)

TEL03(5666)4801 | FAX03(5666)4802

「自立」のススメ

いわはし み き
岩橋美樹

「自立」って何でしょうね・・・？ 日常の暮らしの中で考えて生活したことなんてないもの。

でも私は自立していると思っています。いまだに親にお小遣いをもらったり、美味しいご飯をご馳走になったり、旦那様に送り迎えをしてもらったり、弟にランチをおごってもらったり（^^;）。たくさんの人に世話になり、迷惑をかけてます。

こんな状況で自立？？ でもね、人って一人じゃ生きていけないじゃない？ 少なくとも私は一人じゃ寂しくて生活できないかも・・・。だからうちの旦那様は必ず家に帰って私の相手をしなきゃダメなのよ、可哀相に・・・。

話はそれましたが、こんな生活でも私は自立していると思っているのは、私が「そうしたい」と望んで生活しているから。美味しいご飯を食べたいし、旦那に迎えに来てもらいたいし、弟にもランチをおごってもらいたいし、ね。だからこのことで怒られようとケンカになろうと仕方がない。謝るなどして対処して責任をとればそれでいいと思う。

「そうしたい」だけでは単にわがままになってしまうかもしれないけど、その行動ひとつひとつに責任がとれて上手く社会に調和していければいいのかなあ、と私は思います。

私の考える「自立」・・・まとまらないけれど、自分のやりたいことを責任を持って行動ができる・・・ということで「自立のすすめ」を終わりたいと思います。



けむりになってしまった。けむりだ。朝起きて害虫になってしまった人間が居る程の世の中だ、けむりになっても別に不思議なことでもないと思った。でも、どうしよう？そもそも俺は生きているのか？俺はもう直ぐ消えてなくなってしまうのだろうか？消えたけむりはどうになってしまうのだろうか？なくなってしまった俺は何処に行くのだろうか？別に其れがわかったからと言って何かが変わる訳でもなかった。結局俺は唯ひとり(擬人法)、音も無く消えて行く。寂しくなった。嗚呼、俺は此の儘理由も無く消えてなくなってしまうんだな。

ふと見下ろすと花と男が言い争っていた。「今は見ての通り死にかけの醜い花ですがほんの一滴の水で美しく咲いて見せます。たった一滴、水を注してはくれませんか？」花は咲いているときは美しいが枯れ行くときは惨めなものなのだ、と男は思いました。「美しいものは好物だがね、今の君からは美しさの欠片すら感じられない。醜いものの言うことは申し訳無いが聞くことは出来ないね。」「だからほんの一滴の水を注してさえ頂ければ美しく咲いて見せます。」「そうは言ってもね、現に君は醜いからね、醜いものはやっぱり信用出来ないよ。」「人間なのだから花に水を注すのは当然でしょう？」「其れは花が驕っているだけさ。我々人間は花の為に生きているのではないのだよ。自分達のためだけに生きているのだから。何でもやってくれと思われては困る。」「黙って言うことを聞けば良いのだ、愚かな醜いだけの人間のくせに。」「でも君は愚かな醜いだけの人間なしでは生きては行けない。」「だから頼んでいるのではないか。」「成る程君達花は花であると言う権利を主張するが我々人間には権利と言うものが無いらしい。君達の言うことを聞くしかないのだな。我々が好意で接していることを忘れないで欲しいものだね。」「だが花が花であることを忘れて貰っては困る。」「そう権利ばかりを主張するのは感心しないな。」

くだらなかった。人間だろうが花だろうがけむりだろうが何でも良いではないか。お前らみたいな奴ら枯れてくたばっちまえ。何もかもがつまらなく思えて来た。消えてなくなること悪くないのかも知れない。変えられないかも知れないけど、でも俺には確かに運命がある。ちゃんと始まりがあって終わりもあるのだ。例え虚しいものでも、運命すらなく、始まりも終わりもないよりよっぽど良い。寂しい運命にも従っていれば、運が良ければ奇跡だって起こるに違いない。何て考えてるうちに、消えた。

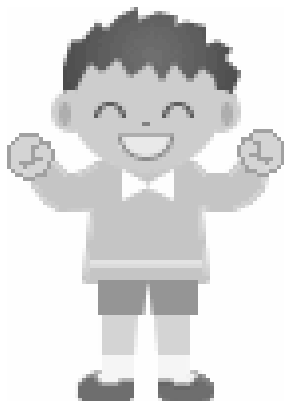
ヘルパーさんたちのあそびば

だいじゅうにかい はやし かずよし 第十二回：林 和由

はじめまして、4月からステップエドがわでヘルパーをしている 林 和由と申します。全く畑違いな仕事から介助という仕事に身を投じて、学ぶことだらけの日々を送っています。毎日いろいろなことを感じ、考え、教えられ、悩んだり、時に励まされたりしながらみんなにヘルパーとして育ててもらっているのを肌で感じている日々です。

さて今回、“会報書いて！”と言われ、いろいろ悩んだのですが、私が2年前に知り合った友人のことを書こうと思います。彼は私より18歳年下の小学4年の男の子です。友人たちとはじめた芸術サークルにその子がやってきたのが最初でした。その子はいわゆる多動傾向がある自閉症児で、入ってくるやいなかや部屋中走り回り、大声で叫んで、自分の頬をバッシン！バッシン！叩いて頬は真っ赤に腫れていました。急いでやめさせようと手を押さえましたが離すとすぐまた叩きはじめました。何故だかすごく興奮していて私はその子に翻弄されっぱなしで終わってしまいました。自閉症児に接するのが初めてだった私は、正直すっかりひいてしまい、このサークルをはじめるとき、「うちではちょっと……」とか「他の参加者の迷惑になるから……」と断られてしまうか、そう感じてあきらめてしま

っている人たちにこそ来てもらおう。来てもらえるものにしよう。と志してはじめたものの、これでは本人も周りの人も絵を描くどころではなくなって本末転倒なのでは、と不安に思ったのでした。しかしそれから彼に会うたび私の考えは変わっていきました。彼には言葉がありませんが、言葉以上のもので感情をストレートにぶつけてくるのです。また私や周りの人たちのことを本当に良く見てるな～。（と、言うより感じていると言った方が良くいかも）とおうようになりました。



私が他の人の絵を見て話しているとき、彼が水入れをひっくり返して水をこぼしたことがありました。その時は大変だ自分が目を離したすきにしまった。と思ったのですが、それからまたしばらくして他の人と話しているとき、彼は私の方をチラッと見て水入れを持ち上げ放り投げました。床も机もびしょびしょで、私は「あーっんにやろおやったなー。」と思うと同時に何かすこし安心した気持ちになりました。「ダメだろ。こんなことしたら。」そう言ってぞうきんを持ってきて一緒にそうじしながらむくれてめんどくさそーにぞうきんかけてる彼は「ふーんだ。かまってくんないのが悪いんだ。」とでも言わんばかりにふくれて、なんだかすごく微笑ましい気分になりました。それから彼はいろいろやらかしてくれます。トイレの便器にトイレットペーパーをロールごと投げ込んだり、みんなが描いているモチーフをかじったり、袖を引っ張るやつがいるので振り返ったら日の中みどり色（絵の具かじった）の彼が立っていたりと、その時は怒るのだけど、そうやって自分をぶつけてくる彼はごく普通のわんぱくでさみしがりやでやきもちやきでいたずらずきなやさしい 10歳の男の子で、いつも何かを伝えようと相手がわかってくれるまで懸命になっているように見えるのです。時々笑っていられないくらい彼が荒れている時があります。自分の手足を傷つけて傷口を弄り回したり、ずっと泣き止まず、疲れて泣き止んでもうつろな目をして寝転んだままでこちらの言うことに反応してくれなかったり。お母さんに聞くと薬の副作用かなにかで時々こういうときがあるそうなのですが、そんな時は、次会う時はいつものお前でいてな。と願う以外何も出来ません。彼が言葉をしゃべれたらこんな時何をいいたいんだろう。解かってやれない自分がとてもはがゆく、いっそはつきり言ってくれたらと思う事もあります。けれどいつか医学が進歩して彼と言葉を交わせるようになったとしても、いまのままだったとしても、彼は彼のまま純粋に育ってほしい。これからは彼の行く先は大変なものには違いないのだろうけれど、彼という個性は障害があるろうとなかろうと私は大好きだし、失くしてほしくないと思うのです。彼と会っていままで見えなかったものがいろいろと見えてきた気がします。私が一方的に彼の面倒を見ているのではなく、私も多くのことを彼から教えられているんだと、言葉にするのは難しいけどいつもそう感じるのです。ヘルパーだけをしていたらきっと私は気が付かなかったものをもらっている。彼とはこれからどのくらいいっしょにいられるかわからないけど、どうぞこれからもよろしく。

ヘルパーさんたちのあそびば

だいじゅうさんかい しゅくわ たかこ 第十三回：宿輪 孝子

ヘルパーの宿輪です。昨年9月から1年間、週2回、計5時間というペースで仕事をしていたので、ヘルパーとしてはまだ研修期間中といった感じでしょうか。

この仕事をしていていつも感じるのは、指示行動の難しさです。利用者さんの指示をいかに正確に聞き、迅速かつ丁寧に実行に移すか。以前、子供の幼児教室に通っていたとき、指示行動の練習がありました。”ピンクの線まで右手でドリブル、次は白い線まで左手でドリブル、その後はボールを抱えてジグザグに走り、突き当たったら後ろ向きに走り・・・。”といったものです。とても単純で明快な指示でわかりやすいのですが、先生の指示通りに出来ないわが子を見て、”なぜ？”の連発でした。でも今はとてもよく理解できます。たとえルーティンワークであっても天候、その日の行動や気分などによって指示は微妙に違ってきます。疲れていたり、集中力に欠けていたりすると、聞き逃してしまったり、すぐに対応できなかったり・・・。常に緊張感を持って、万全な体調で望まなければきちんとした仕事が出来ないと思います。家庭ではいつも子供たちに指示を出す立場です。自分の言ったとおりに子供たちがしないとき、出来ないときあるいはやることすらすっかり忘れていたり、本当にがっかりします。言うのも面倒で自分でやってしまったほうが早いと思うこともあります。でも利用者さんは諦めずに根気強く指示を出さなければなりません。利用者さんはかなり忍耐が必要(?)などと利用者さんの立場になってしまいます。ですから利用者さんの思い通りに介助できなかった時には反省、反省です。



こんな私ですが、この仕事と出会えてとても満足しています。自分の世界が一回り広がった感じです。細々とではありますが継続して、“あの人に介助してもらいたい。”とご指名がかかるようなヘルパー目指して頑張っていきたいとおもいます。

自立生活にむけて

体験ルームを利用して その2

並木 利恵

“次の体験は一週間！”と心に決めて挑戦したものの、「本当にできるのかな？」という不安と「どこまでできるか試してみたい！」という複雑な気持ちで、二回目の体験がスタートしました。実際に実行してみると、周囲からのプレッシャーや自分の体力が伴わず、三日目にして一度自宅に帰ることになってしまいました。そして一泊休養後、気持ちを新たに、後半の三泊に臨みました。体験ルームに戻ると早速予定があり、初めて区役所の係長さんと面会して、支援費の時間数の交渉をする大事な日でした。係長さんとは電話で話したことはありましたが、実際に会って話すと、すごく緊張してしまい、自分の思いを伝えるだけで精一杯でした。その結果は、やはり厳しい回答で「将来への投資に時間数は増やせない！」ということとで、良い勉強をさせていただきました。

それから二回目の体験での反省点は、健康管理のほかに、一週間泊まると思って買ってしまった食材の量の多さに冷蔵庫がいっぱいになってしまったことを記憶しています。次回は気をつけようと思っています。



そして残暑が厳しかった九月。今回の体験では、三泊四日を二回やるというプランを立てました。前回、体調を崩してしまったということもあり、前半と後半に分けて挑戦する予定でしたが、またもや前半を終えて一度自宅に戻ったら、久しぶりに高熱を出し、後半の体験はできなくなってしまいました。でも

今回の体験で一番楽しかったことは、ヘルパーさんと代官山へ買い物に行ったことでした。初めて代官山に出かけたので、あまりたくさんのお店には入りませんでした。代官山の街並みと雰囲気を少し実感してきました。実際のところ、車椅子で入れるお店が少なく、お店の入り口にちょっとした段差や二、三段の階段があって、店内も狭い感じでした。でもお昼を食べたり、ショッピングも楽しんで、帰りは渋谷駅まで歩き、109に寄って、また買い物をしてきました。今回の体験で良かったことは、食材の量をだいたい加減して買えるようになったことと、前回の時に買ったボクサーパンツが使いやすかったことでした。健康管理は、なかなか難しいものですね！

やっと涼しくなったかと思ったら、秋の長雨。十月の体験は初日から雨でした。天気が悪かったので、あまり遠出せず、瑞江周辺で夕食の買い物を済ませたり、足りないものをヘルパーさんに頼んで買ってきてもらったりして、三泊四日のんびりと過ごしました。今回の体験では、帰る日にバーベキュー大会があったので、その日のために健康管理をしましたが、体験ルームに来ると、環境の変化になかなかなじめず、毎回のよう便秘してしまい、この日も遅れて参加しました。晴天に恵まれ、外で食事をする機会も普段はあまりないので、とても美味しく、楽しいバーベキュー大会でした。このようなイベントの企画もたまにはいいですね！



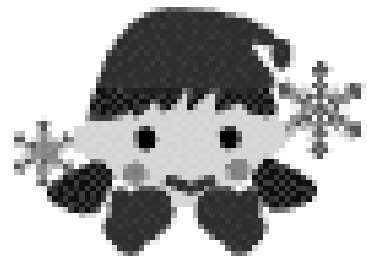
体験ルームに少しずつ慣れてきた十一月。今回の体験では、楽しい事をたくさんやろうと事前に計画を練って、二泊三日の体験に臨みました。今回は初日から天気が良かったので、今まで出たことのなかったベランダに出てひなたぼっこをしたり、入浴の時に、初めてリフターをつかって湯船に入ってみました。初めてのリフター体験は、胴体を支えるベルトがついていなかったもので、体がフワフワと宙に浮くような感じでした。怖かったです。私にとっては、あまり使い勝手の良いものではなく、やっぱり自力で湯船に入る方が楽し、早いし、安心して温まれるような気がしました。リフターも一度はどういうものか試してみたかったので、体験できて良かったです。

それから今回の体験の目的でもあった大江戸温泉物語。とても暖かい秋
晴れに恵まれました。朝十時半に脊損協会の車に乗り、大江戸温泉に向かいま
した。昼食前に一度ひと通りの温泉に入りました。私の好きなお風呂は、
ジャグジーのお風呂と露天風呂、あとはお湯の温度が熱すぎないお風呂です。
前回行った時は、浴室用の車椅子が置いてなかったなので、全部手をつないで
歩いて移動しましたが、今回は車椅子で移動できたので、だいぶ楽でした。一度
お風呂から上がって昼食をとり、帰り際にもう一度、軽く入りました。温泉
好きの私には、二回入れることがとても嬉しかったです。その後、ヘルパーさ
んたちと三人で記念撮影をしたり、お土産も買って、とても楽しい一日でした。

私は七月から月一回のペースで体験ルームを利用させていただき、本当に
良かったと感謝しています。自宅では何気なく毎日食べている食事も一人とな
るとメニューから考えて、分量の少ないものを買ったり、買い置きできる物と
できない物を考えたり、お米は毎回自宅から持参したり、なるべく無駄のない
ように食事を作ってもらいましたが、やはり食事は毎日のことなので、いつも気
にかけていました。一人だと何でもすぐに食べきれ
ないので余ってしまい、その後、冷蔵庫に野菜がい
っぱい残っていることがよくありました。

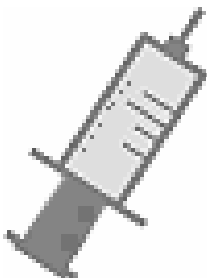
このようなことも全部含めて色々な体験ができ、
今年は五回体験ルームを利用しました。ヘルパーさ

んという他人介助の難しさやありがたさも何となく実感できました。また親の
存在の大きさや有り難味もよくわかりました。貴重な体験をさせていただき、
本当にありがとうございました。“終わり良ければ全て良し”ということで、今年
の体験ルームは、これにて終了です。



勝矢光信の情報発信!!コーナー

ナイチンゲール:



ナイチンゲールが、看護学を確立したのも、看護婦としての経験からではなく、長い間の患者としての叫びからであった。看護婦としては、わずか三年間、クリミア戦争で活躍しただけで、以後は病人として、看護の理想を訴え続けた。ベッドを清潔に、部屋を明るく、患者の気持ちにくんでなど、看護学の基礎は、患者としてナイチンゲールの訴えであった。障害者も自分の立場を叫ぶ事が、社会を良い方向に変えていくという信念を持って欲しい。看護の理想を一番良く知っているのは患者であり、障害者の理想を一番良く知っているのは障害者である。看護の理想を叫ぶ事で、社会は変わった。自立の理想を叫ぶ事で、社会は確実に変わってきたし、今後も、変わっていくであろう。ナイチンゲールは、当時の政治家には、うるさいババアとしか映らなかった。とってもわがままだったかもしれない。毎日、看護について書き、政府に提出した。その結果、奴隷以下の卑しい仕事であった看護師の地位向上につながった。障害者が一番希望する「介助」を叫ぶ事で、ヘルパー職の地位向上につながり、結果として、障害者の生活向上につながる。

福祉機器展:

今年も福祉機器展に行った。各社の研究熱心には、感動さえおぼえる。車イス、リフト、自動車を見て回った。生活を向上させるのが「仕事」「産業」になる。日本の技術者レベルは高い。皆、熱心に取り組んでいる。この分野で障害者のできる事は、自分の困難をありのままに話すことである。

2005年は障害者のオリンピックが2つ開かれる:

デフリンピック（4年ごとに行なわれる聴覚障害者のオリンピック）

200回目は 2005年1月6日から、メルボルンで開かれます。
フレイフレージャパン！

2005年2月26日から、長野スペシャルオリンピック
知的障害者の世界大会です。応援に行きましょう。

ホテルの調査

「浅草ビューホテル」

ゆうびんばんごう

〒 111-8765

じゅうしょ ことうくにしあさくさ

住所 台東区西浅草3-17-1

でんわ

電話 03-3847-1111

ホームページ

H P www.viewhotels.co.jp/asakusa

ちえつくいん じ あうと じ
チェックイン 13時 アウト 11時

かいぞう ねん がつ
改造2003年9月

ぜんしつすう
全室数338

しょうがいしゃるーむすう
障害者ルーム数

2 (部屋の番号2401、2416)、

0.5 %、

へやめんせき へいほうめーとる
部屋面積 39m²

ぐれーど じゅにあすいーと
グレード ジュニアスイート

りょうきん えん そうだん き
料金 50000円 (相談で決める)

きー かぎ
キー：鍵

べっど たいぶ ついん たか せんちめーとる
ベッドのタイプ (ツイン) 高さ 60cm

なが かい てんぼうさいこう せんそうじ
眺め 24階で展望最高。2401は浅草寺を、241

6は上野を。

よやく
予約：03-3847-1111

よくそう て いち かたち おく じがた
浴槽 (手すりの位置と形、奥にL字型)

と い れ て いち かたち すわ りょうがわ は あ しき
トイレ (手すりの位置と形 座って両側に跳ね上げ式)

でんどう かー てん くうかん ちょうど はいち よ へや ふんいき よ
電動カーテン、空間があって、調度の配置が良い。部屋の雰囲気が、とても良い。

おしゃれな、おとなっぽい部屋。はででは無いが、使い易い。

「ベッドの周辺に手すりが無いので、移乗できない場合、どうしたら良いですか」との質問に、「ご不自由な点がありましたら、いつでも職員がお手伝いいたします」と。「都会のお客様、なじみのお客様が利用されている」と。



「部屋の設定温度も、電話でリクエスト下さい。お客様とのふれあいを大切にしております」と。下町の温かさを感じた。いつか、機会があったら、宿泊してみたいと思った。

「丸ノ内ホテル」

ゆうびんばんごう

〒 100-0005

住所 丸ノ内1-6-3 OZON

電話 3217-1111

ホームページ

H P <http://www.marunouchi-hotel.co.jp/> (室内平面図)

チェックイン 14時 アウト 12時

設置 (改造) 2004年10月1日

全室数 205室 ユニバーサル・ルーム数 1 (部屋の番号 901)、

0.5 %、

部屋面積 43.7 m²

グレード デラックスツイン

料金 41980 円、

鍵: : さしこみカードキー

ベッドのタイプ (セミダブルのシングル。ハイダーベッド) 高さ 60 cm

エキストラベッドは 4000 円追加

眺め まあまあ

浴槽 (手すりの位置と形) (洋式バスタブ: 奥に手すり、洗面場にシャワー)

トイレ (左右に、振り上げ式手すり)

東京駅から朝早く出発するときには、きわめて便利。とても広いので、1人ではさびしいと感じた。

猫を見ていると:

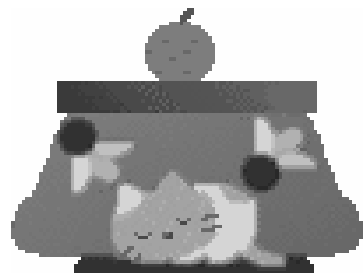
猫は、手が使えないので、常に主人の世話にならなく

ては、生きていけない。ご主人がエサをくれなければ、

飢えて死ぬ。部屋のドアを開けてくれなければ、

トイレにも行けない。主人がドアを閉めて出ていった

ら、部屋でそそうをした。臭いニオイ。主人は、自分



の責任を柵に上げて、猫の頭をおもいきりなぐった。常に主人の顔色をうかがっている。主人の問いかけを無視すると、おこられる。主人が話しかけたら、わかってはわからなくても、「ニャア」と答える。答えないと、しつこく責め立てる。「オマエのせいで、旅にも行けない」と言って、さかんに恩を売る。心の中では、家出をしようかと思うが、1人では生きていけなくなる。「主人なんて死んじまえ」と思うが、主人がいないと、自分は生きられない。

せかいいいさん にっこうとうしょうぐう 世界遺産 日光東照宮：

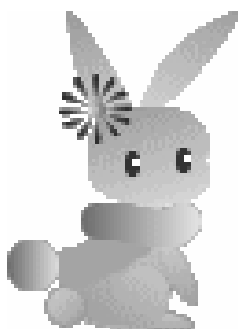
地上から坂を登って、キップを売っている入口までは、行けた。最初の21段は、横のスロープ付きの「門」を開けてもらえば、1段+1段+4段で、板が置いてあるのでスロープにしてもらって、入る事ができた。そこに、障害者用トイレが完備されてあった。このフロアーで「見ざる聞かざる言わざる」の彫刻、手を清める場があった。車イスでは、ここまでだった。さらに21段登った正面に陽明門、さらに、鳴き竜、眠り猫があるが、登れないので、見る事ができなかった。(一般1300円 障害者半額。)

天下の世界遺産でありながら、バリアフリー対策がこれほど遅れている所もめずらしい。前後42段には「手すり」さえない。前後42段は、直線階段なので、簡易リフトなどの設置は、構造上、難しくはない。なんとかならないのか？

こまつがわ せんぼんざくら こうえんふう ひろば 小松川(千本桜)公園風の広場：

日光浴。桜の紅葉、満開のコスモス、風に揺れるススキ、全てが感動であった。

のんびりした散歩や野原でのうたた寝は、人生最高の贅沢。秋のやわらかなヒザシを浴びながら、時を忘れ、世のわずらわしさを忘れ、身の危険も忘れ、



ひたすら眠り続けた。気がついたら、太陽は西に傾き、外気も一瞬ひやっと感じるほどになって、手を伸ばして、服をさがした。至福の時というのは、金も使わないで、だれにも縛られないで、悩みを忘れた今日のような一日を指すのかもしれない。

地下鉄都営新宿線「東大島駅」で、電車の窓からこの公園を眺めると、閘門遺跡のある高台で、完璧に整備されておりな

がら、人の姿があまりない。「もったいないなあ」「いつか、行ってみたいなあ」と思いつつ、なかなかチャンスがなかった。ここは、江戸川と旧中川の合流

ちてん つなみ おおみず ふせ じゅうよう ちてん すーばーていぼう いしきてき たか
地点で、津波や大水を防ぐ重要な地点スーパー堤防として、意識的に高く
も あ かたち こうえん かせんしりょうかん こうとうくがわ えど
盛り上げた形の公園になっている。「河川資料館」も（江東区側に）あり、江戸
じだい かわ やくわり りかい いま きゅうこうそくどうろ ひと おお さかな
時代の川の役割も理解できる。今でいえば、1級高速道路に等しい。多くの魚
や米が江戸に運ばれ、多くの人糞が江戸から運び出された。多くの男女が、季節
こめ えど はこ おお じんぶん えど はこ だ おお だんじょ きせつ
になると、「舟」で、郊外に遊びに行った。両国を越えると、草原や海岸が広がり、
かさい いちかわ ふなばし なりたさんしんしょうじ まい しょう あそ で
葛西、市川、船橋、成田山真勝寺へと、お参りと称して、遊びに出かけた。
たかだい た しゅうい ば の ら ま よう みわた しんこきゅう なが
高台に立つと、周囲がパノラマの様に見渡せ、深呼吸をして、ぐるっと眺めると、
なんとなく こころ ゆた かわも ゆ みや こどり む たの
なんとなく心まで豊かになる。川面に揺れるミヤコドリの群れも、楽しそうであつた。

ぶんきょうくおおつかこうえん

文京区大塚公園で:

えど じだい み きか はな ほ えど とうちほうほう
江戸時代の「見ざる聞かざる話さざる」が、彫られてあつた。江戸の統治方法を
たんてき かた にっこう かくち ほ もの み せんご
端的に語るもので、日光だけではなく、各地にその彫り物が見うけられる。戦後、
みんしゅしゅぎしろう い えど じだい み き はな いしき
民主主義思想をとり入れたが、江戸時代からの「見ざる聞かざる話さざる」意識
は、まだまだ私たちの心に巣食っている。これは一種の処世術で、政治家ば
かりか しょみん つごう よ かんが さいきん こまいぬ
かりか、庶民にとっても都合の良い考えなのである。最近、狒犬だけではなく、
えど じだい さか しろう ちょうこく かたち みち かたわ
江戸時代に盛んになった思想が、彫刻という形で、道の傍らにひっそりと
う 埋もれているという驚きと同時に、歴史は簡単には変わらなかったのだという
にんしき あら め おも ぎもん
認識を新たにし、目のさめる思いをしている。それにしても、疑問はどんどん
わいてくる。じゅきょう かんけい じどう えど 民しゅう しろう
儒教と関係があるのか、どうして、江戸の民衆はこの思想を
う い 受け入れたのか、だれが、いつからひろめたのか、どのようにして全国に広ま
ったのか、だまって受け入れたのか、疑問だらけである。

ほん せっくすぼらんていあ

本「セックスポランティア」:

かわい かおり しんちょうしゃ えん ぜいべつ あいえすびーえぬ

河合香織 新潮社 1500円(税別) I S B N 4-10-469001-5

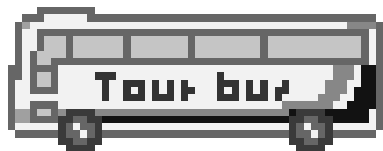
おらん だ じれい ひ る ぼ ひと あい
オランダの事例を引いて、ていねいなルポになっている。さびしさを人は、愛に
う によって埋められる。あい かたち はなし ふ あ せっくす
愛の形はいろいろで、話をする・触れ合う・セックスを
するなど様々。自分で選んでいく以外に無い。解答は、どんな時代にも無い。
きょういく くる すく しょうがいしゃ せいきょういく ふきゅう
ただ、教育によって、苦しみは少なくなる。障害者に、もっと性教育が普及
しなくてはならない。あい う て かぎ ふまん のこ あい あた こと せい
愛は、受け手でいる限り、不満が残る。愛は与える事。性
も、与える性でありたい。あ た せい で あ しょうがいしゃ しごと
出会いは障害者にとって仕事である。

ちょうきよりばすしんじだい
長距離バス新時代:

あつと驚く、ためごろう！時代は急速に進化している。今、多くの長距離バスが車イスのまま乗車可能になってきた。こんなに多くの長距離バスが、バリアフリーになっていたとは、お釈迦様でもしらんめえ！？

2000年11月15日「交通バリアフリー法施行」以後、新設の長距離バス路線、新購入の長距離バスは、車イスでも利用できなければ認可が下りなくなった。したがって、かなり急速に、長距離バス新時代を迎えつつある。以下、とおきの丸秘情報、一挙公開！教えたくないなあ、どうしようかなあ？？

障害者手帳を提示、例えば、京都まで片道1人 4200円！！利用しないと、もったいない。乗らなければ、空席で走っていることになる。



まず、配車の関係で、2週間前に予約するか、バリアフリー対応バスの時刻に合わせるか、どちらかにして欲しいとのこと。

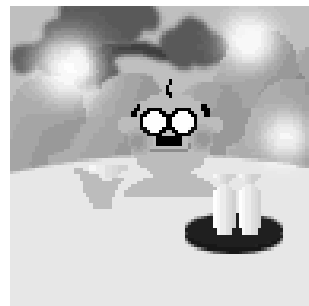
J R 関東バス予約 5690-2711
ドリーム大阪号・ドリーム京都号・ドリーム神戸号、車イスのまま固定できるバス、計30台（三菱）保有。

筑波バスセンター行き「メガライナー」は、1時間おきに出ている、全長15mの車体（日本で一番長い。普通は12m。外国製）「メガライナー」も、車イス単独乗車可能。

J R 四国バス 予約087-825-1657
高知、松山行きに、バリアフリー対応バスを所有
広島電鉄バス 予約 082-231-5173
広島行きに、バリアフリー対応バスを所有
小田急バス、京浜急行バス、京王バスは、まだ、購入していない。将来、この3社が、バリアフリー対応バスを購入すると、かなりの範囲に出かけられるようになるであろう。障害者のみなさん、声をあげましょう！

かぞくふうろ
家族風呂:

最近、ホテル・旅館で「家族風呂あります」の表示が多くなった。高齢社会になって、異性介助を必要とする熟年者・障害者の増加が、その背景にある。家族風呂



おお て だんさ ばり あ ふ り ー よくそう たか くるまい す おな
の多くは、手すり・段差などバリアフリーで、浴槽の高さも車イスと同じにな
な 中 まで スロ ー プ や ゆ り い 段 になっ て い たり す る。 使 用 時 間 も、
しょうがいしゃ ちょうじかん ゆる じかん せつてい むずか
障害者には長時間も許される。どこも、予約制なので、時間設定が難しいが、
おお しょうがいしゃ かんげい にくたいてき せいしんてき はい
多くの障害者に歓迎されている。肉体的にも精神的にも、ゆったりと入れるし、
いりよう き き お かいじょ らく
医療機器を置いておけるし、介助も楽である。

しょうがいしゃ しごと **障害者の仕事:**

しょうがいしゃ じゅくねんもの で あ しごと よ おも にち なんにん かいわ
障害者や熟年者は、出会いを仕事とすれば良いと思う。1日に何人と会話を
なんにん ち が なんかい あいさつ か じぶん もくひょう
か？何人とすれ違ったか？何回、挨拶を交わしたか？それぞれに、自分の目標
き 決めて、やれば良いと思う。この世に、死ぬまで、不必要な人はいない。だ
れでも、ひつよう 生きて いる の だ と 思 う。 何 か し ら、 神 が 求 め て い る の だ
おも みち さが じぶん じんせい み こと
と思う。その道を探し、自分なりの人生を見つけていく事。

うんつま?



おナツのへい

すぽてんだい



切実なんです



慣 礼





にち じょう せい かつ し えん じゅうぎょう しゃ よう せい けん しゅう

日常生活支援従業者養成研修

つう しょう にじゅう じ かん けん しゅう かい し ほう こく

(通称：20時間研修)開始報告



10月よりSTEPえどがわでも、日常生活支援従業者養成研修を自前で出来るようになりました。パチパチパチ(∩o∩)／

これまで、とても良い人材が見つかって、無資格ゆえに採用を見送らざるを得なかった人々を、これにより、全身性障害者など日常生活支援区分の利用者さんに限ってはありますが、自前で早く資格を取ってもらえることが可能になりました。よって、自薦ヘルパーも見つけさえできれば、登録しやすくなったかと思えます。

ちなみに、来年の3月まで毎月第3週の金・土・日の3日間コースで開催予定です。(4月以降は日程がちょっとかわるかも)1回の定員は5名です。移動介護(外出介助等)の実習も含まれています。これからヘルパーをやってみようと思う方、自薦ヘルパーを探してる利用者の皆さん、是非この養成研修についてお問い合わせください。





STEP えどがわ 事務所移転 の ご挨拶

す てっぶ
えど がわ

じむしょ いてん
の ごあいさつ

ぜんかい がつごうはっこうちよくご じむしょ いてん がつ にち かいしよしき おこな
前回の 9月号発行直後に事務所を移転し、10月23日に開所式を行いました。
まえ じむしょ かいせつ ねんはん たんきかん いてん じ きしょうそう
前の事務所を開設してまだ 1年半という短期間で移転をしますのは時期尚早の
かん たん てぜま けんあん
観もありましたが、ただ単に手狭になったというだけでなく、これまで懸案だ
どくりつ そうだんしつ かくほ じつげん ぶつけん み
った独立した相談室の確保が実現できる物件が見つかったことと、地域に
ね かつどうだんたい ため ちいき かた た よ ばしよ
根ざした活動団体になる為には、やはり地域の方が立ち寄りやすい場所と
ふん い き きよてん ひつよう かんが おも き いてん けつだん しだい
雰囲気の拠点が必要と考え、思い切って移転を決断した次第です。

こんご りようしゃ じぎようしゃ せいど か
今後、利用者としても事業者としても、制度がどのように変わっていくのか
よだん ゆる じようきよう つづ す たっ ふいちどうきようりよく あ よ
予断の許さぬ状況が続いていますが、スタッフ一同協力し合ってより良い
しゃかいづく きよ い おも みなさま ぜ ひ いちど あたら ひろ
社会作りに寄与して行きたいと思っております。皆様、是非一度、新しく広くな
す てっぶ じむしょ こ
ったSTEPえどがわ事務所にお越しく下さいませ。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

す てっぶ じむしょ こ
STEPえどがわ スタッフ一同



しんじむしょじゆうしょ
新事務所住所

〒133-0065

とうきょうとえどがわく
東京都江戸川区

みなみしのざきまち
南篠崎町3-9-7 1F

TEL : 03-3676-7422

FAX : 03-3676-7425



活動報告

10月/11月/12月中旬 活動報告

- 10/5 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
10/6 (水) スタッフミーティング
10/7 (木) 親睦バーベキュー大会
無料相談
10/10 (日) ~11 (月) 集中ピアカン講座
10/12 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
10/13 (水) スタッフミーティング
10/15 (金) ~17 (日) 日常生活支援従業者研修
10/17 (日) 船堀駅前ビラ配り
10/18 (月) 鹿本中学校講演会
10/19 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
10/20 (水) 全国大行動 (厚生労働省前、日比谷公園)
10/21 (木) 墨田区支援費説明会
10/23 (土) 開所式
10/25 (月) ユニバーサルデザインワークショップ
10/26 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
10/27 (水) スタッフミーティング
11/9 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
11/10 (水) TIL全体会議/スタッフミーティング
11/11 (木) 理事会
11/12 (金) ヘルパー研修
ICF会議
11/14 (日) 集中ピアカン講座
11/15 (月) D P I 東京
11/16 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
11/17 (水) スタッフミーティング
11/19 (金) 障害者福祉課 (支援事業認定交渉)
11/20 (土) 東京顕損&リハビリテーション工学カンファレンス合同シンポジウム
11/24 (水) スタッフミーティング
11/26 (金) C I L 昭島主催講習会参加

- 11/30 (火) 長期ピア・カウンセリング講座参加
パチンコウェスタン社訪問
- 12/1 (水) スタッフミーティング／個別相談
- 12/2 (木) 無料相談
- 12/4 (土) ガイドヘルパー講習
- 12/5 (日) ガイドヘルパー講習
- 12/8 (水) スタッフミーティング
- 12/9 (木) 障害者ケアマネ研修
- 12/10 (金) 理事会
- 12/12 (日) ～14 (火) ピアカンリーダー養成講座参加
- 12/13 (月) ～14 (火) 障害者ケアマネ研修
- 厚生労働省12月行動
- 12/15 (水) 厚生労働省12月行動
ハッスル・クリスマスル (筋肉ミュージカル観賞)
- 12/18 (土) ～19 (日) 日常生活支援従業者研修
- 12/22 (水) スタッフミーティング
- 12/23 (木) クリスマスパーティー
- 12/24 (金) グランドデザイン勉強会
- 12/28 (火) 大掃除
- 12/29 (水) ～仕事納め

ねんじぎょうかつどうよてい
2005年事業活動予定

- 1/4 (火) 仕事初め
- 1/24 (月) 江戸川養護学校進路授業
- 2/7 (月) 江戸川養護学校進路授業
- 2/14 (月) 江戸川養護学校進路授業
- 2月下旬頃～3月 自立生活プログラム (ILP) 開催

会員募集

STEP えどがわは、STEP ポリシーとSTEP 訓の下、障害者の自立生活に係わる様々な問題に取り組み、ひいては地域に根ざした社会貢献団体になることを目指しています。

つきましては、当法人の活動趣旨にご賛同いただける皆様に会員（正・賛助）になっていただき、共に自立生活センターSTEP えどがわを支え育て下さる仲間を募集します。

正会員（正会員は、当法人の定款に定めた総会に参加できます）

- ・登録料 5,000円（入会時のみ）
- ・会費 5,000円／年

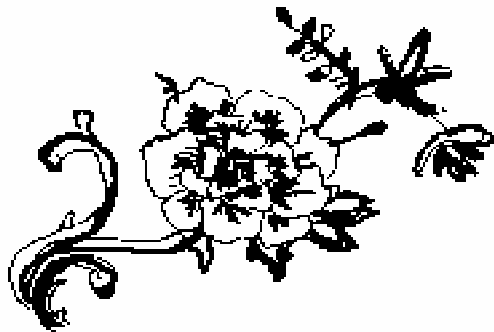
サポーター会員（賛助会員）

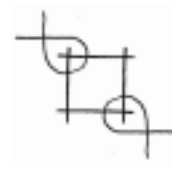
- ・個人 1口 3,000円／年（1口以上）
- ・団体・法人 1口 10,000円／年（1口以上）

会員には、当法人の刊行物、イベント案内チラシ等を送付致します。

会費納入先

＜郵便振替＞ 自立生活センターステップえどがわ No. 00110-0-579238
＜銀行口座＞ 特定非営利活動法人自立生活センターステップえどがわ
東京三菱銀行 瑞江支店普通 0548550





編集後記

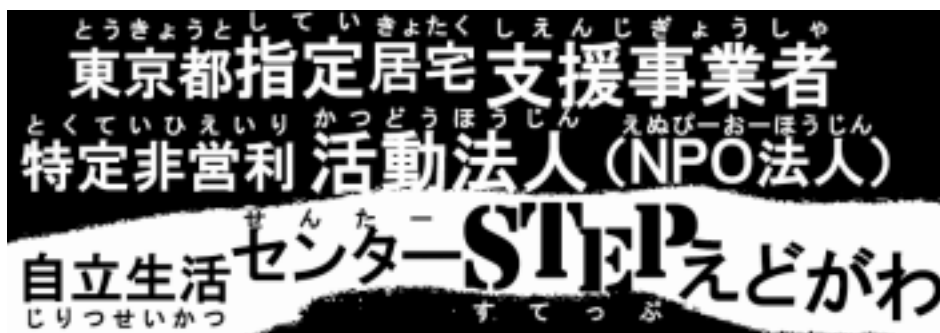
へん しゅう こう き

あるひとに言われました、「年を取ると時間って皆長くなるんじゃない？」って。そうかも知れない。御爺ちゃん御婆ちゃんを見ているとそう思えて来る。公園なんかで仄々してる御爺ちゃん御婆ちゃんなんて 500年前から居るんじゃないの？って言う位の勢いです。もしやこのひと達は生まれた時からずっと老人なんじゃねえか、とも思います。ところで生まれたときから老人だったら年金とかはどうなるんでしょうね？逆に生まれた時からずっと二十歳のひとは一生年金を払い続ける？払う意味無いじゃん。謎。

今年ももう終わり。今年一年多くの皆さんのお世話になりました会報も無事終わりました良かった良かった。本当に有難う御座いました。来年もどうぞ宜しくお願いします。



へんしゅう
編集：



〒133-0065

とうきょうと えどがわ くみなみしのざきまち
東京都江戸川区南篠崎町3-9-7 1F

tel : 03-3676-7422

fax : 03-3676-7425

step-e@technowave.ne.jp

<http://www.nextftp.com/step-e/>

